実戦トライアル　ナビゲーションシート

受験生の皆さんへ

この「ナビゲーションシート」は，受験を控えた皆さんが試験を受けるときに，できるだけ高得点がとれるような時間配分ができるようになるための設計図です。

皆さんがもっている学力を十二分に発揮し，最大の得点を勝ち取るためには，出題された一つひとつの問題に関して，最善の時間配分で解き進めていく必要があります。

また，「得意なものから解いていく」など，解答する順序についても考えなければなりませんし，目標得点によっては，「すぐにわからない場合は，その問題を飛ばす（その問題をあとに回す）」なども考えなければなりません。このようなことをしないと，時間が足りなくなってしまったり，あわてて簡単な問題をまちがってしまったりしてしまいます。

このような設計を，本番の入試では，問題用紙を開いてすぐに行わなければなりません。

そこで，このシートを使って，徐々に設計に慣れていき，時間をかけずにできるようにしてもらいたいと思います。

実戦トライアル 6+6 は，前半の A 第 1 回から A 第 6 回までが，実入試の半分の分量，後半の B 第 1 回から第 6 回までが，実入試と同じ分量のテストになっています。

まず，A 第 1 回から A 第 6 回までで，時間配分を体得していきます。

シートは次のように使います。

① 目標得点の設定……50 点から 100 点まで，10 点刻み程度の目標得点を設定します。

② 正解すべき問題の設定……小問別の配点と想定正答率を参考にして，目標得点を得るために正解しなければならない問題を決めます。想定正答率は，例えば 50%ならば，全国の中 3 生がこの問題を解いたとき，およそ半数の中 3 生が正解するという意味です。設定する問題数は，目標得点より数点高くなるようにします。

③ 時間配分の決定……大問ごとに，解く時間を設定します。最後の見直しの時間も考えて，設定しましょう。標準設定時間は，100 点をとるための標準的な時間配分です。目標得点と設定した正解すべき問題の数に合わせて時間を設定しましょう。

④ テストの実施……25 分でテストを実施します。よく見えるところに時計を置いて，時間経過を意識して行うようにします。

⑤ 結果の分析……正答誤答の結果を記入し，②での設定と比較して，目標に達しなかった場合には，どこに問題点があったか分析してみましょう。

はじめは自分一人ではうまく設定できないかもしれません。そのときには，先生に助けを求め，一緒に考えてもらいましょう。

実戦トライアルの A 第 1 回から A 第 6 回までに，これらの作業をなるべく短時間でできるようにしていけば，25 分間の試験時間の使い方が自然に身に付いてきます。

B 第 1 回からは，実施時間が 50 分の実入試とほぼ同じ分量の演習になります。分量が倍になるので，集中力も必要となってきます。50 分が有効に使えるような時間配分が，第 3 回目くらいには一人でできるようにし，第 4 回目以降は，シートを使わず，本番のつもりで，問題用紙を見てすぐに設計して実施し，実戦力を身につけるようにしましょう。